

2022年度 環境経営レポート

対象期間

【2022年4月～2023年3月】



発行日：2023年7月6日

比留間運送株式会社

ネット公開用
比留間運送株式会社

目 次

1. 組織の概要	1
2. 許可内容一覧	2~4
3. 車両一覧	4
4. 処理工程	5~7
5. 設備処理能力	8
6. 対象期間（認証・登録の対象組織）	9
7. 組織図と実施体制	10
8. 環境経営方針	11
9. 環境経営目標一覧	12
10. 環境経営計画一覧	13
11. 環境経営目標実績	14
12. 環境負荷量の実績	15
13. 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容	16~18
14. 環境関連法規制等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟の有無	19
15. 代表者による全体評価と見直しの結果	20

1. 組織の概要

(1) 社名及び代表者名

比留間運送株式会社

代表取締役 比留間 宏明

(2) 所在地

【本 社】 東京都武蔵村山市中央2-18-3
TEL: 042-565-1336 FAX: 042-561-2271

【瑞穂車両基地】 東京都西多摩郡瑞穂町富士山栗原新田237-1

【伊奈平工場】 東京都武蔵村山市伊奈平3-25-5
TEL: 042-560-8806 FAX: 042-520-7576

【入間工場】 埼玉県入間市狭山台3-7-1
TEL: 04-2934-7474 FAX: 04-2934-7493

【瑞穂積替保管施設】 東京都西多摩郡瑞穂町富士山栗原新田237-1
TEL: 042-557-8480 FAX: 042-557-8482

【あきる野積替保管施設】 東京都あきる野市二宮375-1
TEL: 042-518-7079 FAX: 042-518-7099

(3) 事業内容

一般貨物運送業

一般廃棄物 収集運搬業・処分業(中間処理)

産業廃棄物 収集運搬業・処分業(中間処理)

解体工事業

第一種フロン回収事業

(4) 事業の規模(2022年4月～2023年3月)

創業: 昭和28年10月1日

資本金: 1180万円

年商: 2,722百万円

	本社	車両基地	伊奈平工場 ※解体部門含む	入間工場	瑞穂積保	あきる野積保
従業員数(名)	42	22	23	5	4	2
敷地面積(m ²)	1422.56	2,975.34	8,328.26	2,944.67	2,891.00	1,654.00
中間処理施設保管面積(m ²)			1,670.49	976.20		
積替保管施設保管面積(m ²)			62.04		803.7	444.56
積替保管施設保管上限量(m ³)			51.20		1,313.90	751.80
産廃中間処理量(t)			31,828.53	6,443.52		
一廃中間処理量(t)			3,239.14	428.50		
産廃収集運搬量(t)		8,891.45				
事業系一廃収集運搬量(t)		4,698.09				
家庭系一廃収集運搬量(t)	12,787.62					
工事件数(件)			14			

(5) 環境経営責任者(正・副)及び事務局

正: 小野 吉雄【管理事業所: 本社、瑞穂車両基地、瑞穂積替保管施設、あきる野積替保管施設】

副: 天沼 智弘【管理事業所: 伊奈平工場、入間工場】

事務局: 藤井 啓之

(2) 一般廃棄物許可一覧

自治体名	許可の有効期限	許可番号	業の区分	許可品目
武蔵村山市	令和05年04月01日 令和07年03月31日	第4号	収集運搬 (積替保管含む)	事業系一般廃棄物、特定家庭用機器再商品化対象物
	令和05年07月01日 令和07年06月30日	第1号	処分	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、生ごみ、空きかん、空きびん
小平市	令和04年04月01日 令和06年03月31日	第9号	収集運搬 (積替保管除く)	事業系一般廃棄物(可燃・不燃ごみ)
東大和市	令和04年04月01日 令和06年03月31日	第7号	収集運搬 (積替保管除く)	一般廃棄物
八王子市	令和04年04月01日 令和06年03月31日	第90号	収集運搬 (積替保管除く)	事業系一般廃棄物(紙くず、木くず、厨芥)
西東京市	令和04年04月01日 令和06年03月31日	第2-24号	収集運搬 (積替保管除く)	事業系一般廃棄物
東久留米市	令和04年04月01日 令和06年03月31日	第14号	収集運搬 (積替保管除く)	事業系一般廃棄物(不燃ごみ、可燃ごみ)
羽村市	令和04年04月01日 令和06年03月31日	第13号	収集運搬 (積替保管除く)	事業系一般廃棄物 可燃ごみ(紙くず、木くず、厨芥)
昭島市	令和04年04月01日 令和06年03月31日	第163号	収集運搬 (積替保管除く)	事業系一般廃棄物(厨芥、紙屑、木屑)
国立市	令和04年04月01日 令和06年03月31日	第26号	収集運搬 (積替保管除く)	事業系ごみ
小金井市	令和04年04月01日 令和06年03月31日	第125号	収集運搬 (積替保管除く)	一般廃棄物(ごみ)
東村山市	令和04年04月01日 令和06年03月31日	第10号	収集運搬 (積替保管除く)	一般廃棄物(ごみ)
日野市	令和04年04月01日 令和06年03月31日	第44号	収集運搬 (積替保管除く)	一般廃棄物(A類)
立川市	令和04年04月01日 令和06年03月31日	第21号	収集運搬 (積替保管除く)	事業系一般廃棄物
入間市	令和04年04月01日 令和06年03月31日	第12号	収集運搬 (積替保管含む)	ごみ(特定家庭用機器廃棄物を除く)
	令和04年04月01日 令和06年03月31日	第1号	処分	生ごみ、木くず
西多摩郡瑞穂町	令和04年06月22日 令和06年06月21日	第12-2号	収集運搬 (積替保管除く)	可燃ごみ(紙くず、木くず、厨芥)
調布市	令和04年08月05日 令和06年08月04日	第1250001号	収集運搬 (積替保管除く)	可燃性事業系一般廃棄物
西多摩郡日の出町	令和04年10月01日 令和06年09月30日	第6281号	収集運搬 (積替保管除く)	紙くず、木くず
清瀬市	令和05年04月01日 令和07年03月31日	第1号	収集運搬 (積替保管除く)	事業系一般廃棄物(紙くず、木くず、厨芥類)
あきる野市	令和05年04月01日 令和07年03月31日	第391号	収集運搬 (積替保管含む)	事業系一般廃棄物(可燃ごみ、不燃ごみ、食品残さ)、積替保管については、木くず(剪定枝)に限る。
国分寺市	令和03年09月01日 令和05年08月31日	第25号	収集運搬 (積替保管除く)	厨芥類、紙屑、木屑、落ち葉等
福生市	令和03年09月01日 令和05年08月31日	第19号-5	収集運搬 (積替保管除く)	事業系一般廃棄物
青梅市	令和03年10月01日 令和05年09月30日	第23号	収集運搬 (積替保管除く)	事業系一般廃棄物(紙くず、木くず、厨芥類、廃プラスチック類)
府中市	令和03年10月20日 令和05年10月19日	第9号	収集運搬 (積替保管除く)	事業系一般廃棄物(可燃ごみ)
寄居町	令和04年03月01日 令和06年02月29日	第B2203BU022号	運搬 (荷卸しに限る)	生活系ごみ(処理できないごみ(その他のごみ))、事業系ごみ(資源ごみ(紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、焼却灰))
檜原村	令和05年03月01日 令和07年02月28日	第3号	収集運搬 (積替保管除く)	可燃(プラスチック類、生ごみ、木質ごみ等)、資源
桐生市	令和03年10月01日 令和05年09月30日	第127号	運搬 (荷卸しに限る)	事業系一般廃棄物(可燃ごみ)

(3) その他許可一覧

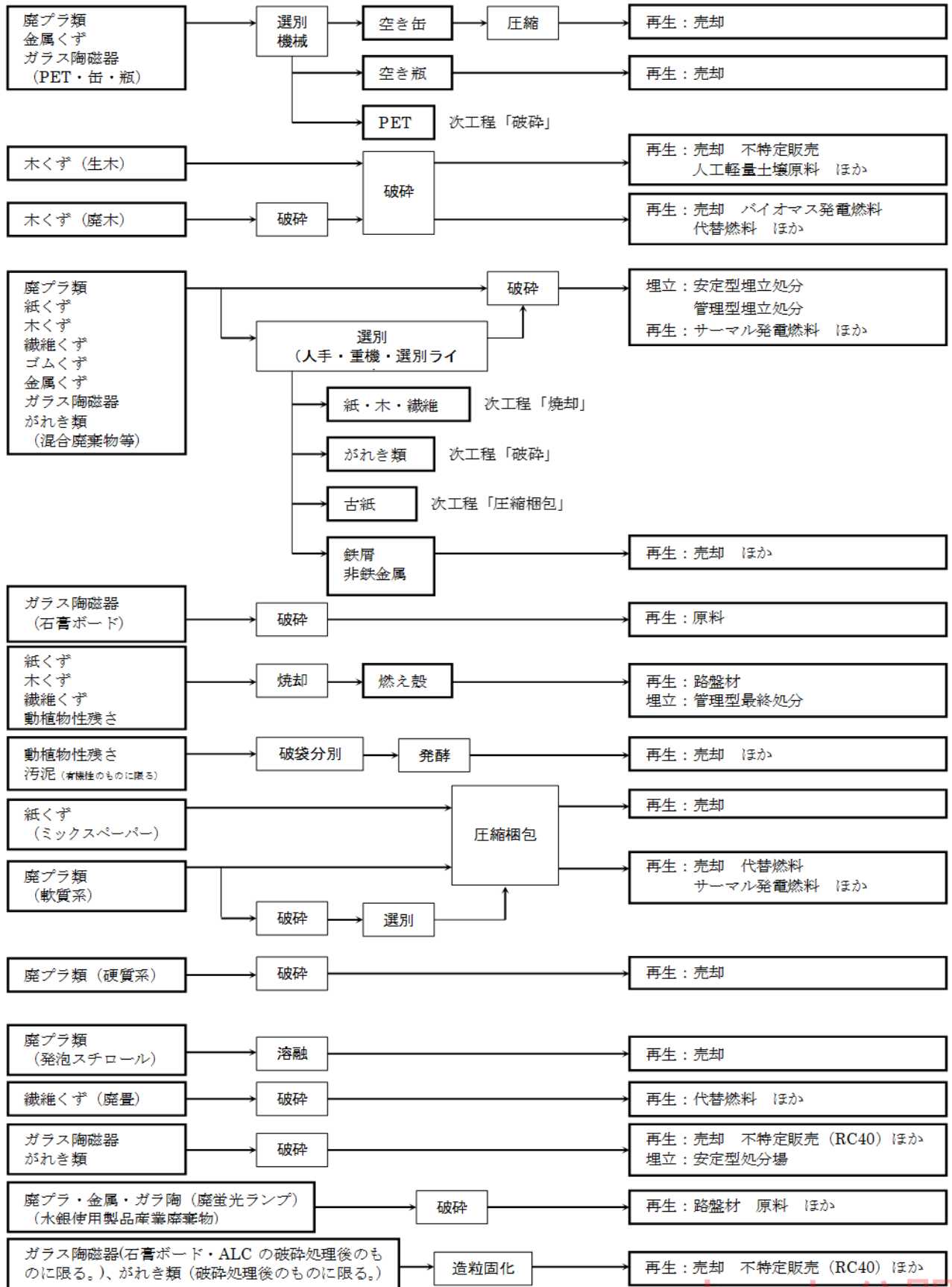
許可名称	業の区分	許可番号	許可等の期限
産廃エキスパート	収集運搬	5-19-B0058	令和07年03月31日
産廃エキスパート	中間処理	5-19-C0068	令和07年03月31日
エコアクション21	-	009047	令和07年01月16日
再生事業者登録	再生	第139号	-
一般建設業許可	建設業	30都市建建第224号	令和10年06月09日
第一種フロン回収業登録	フロン回収	19環都配 第144号	令和09年07月14日

3. 車両一覧

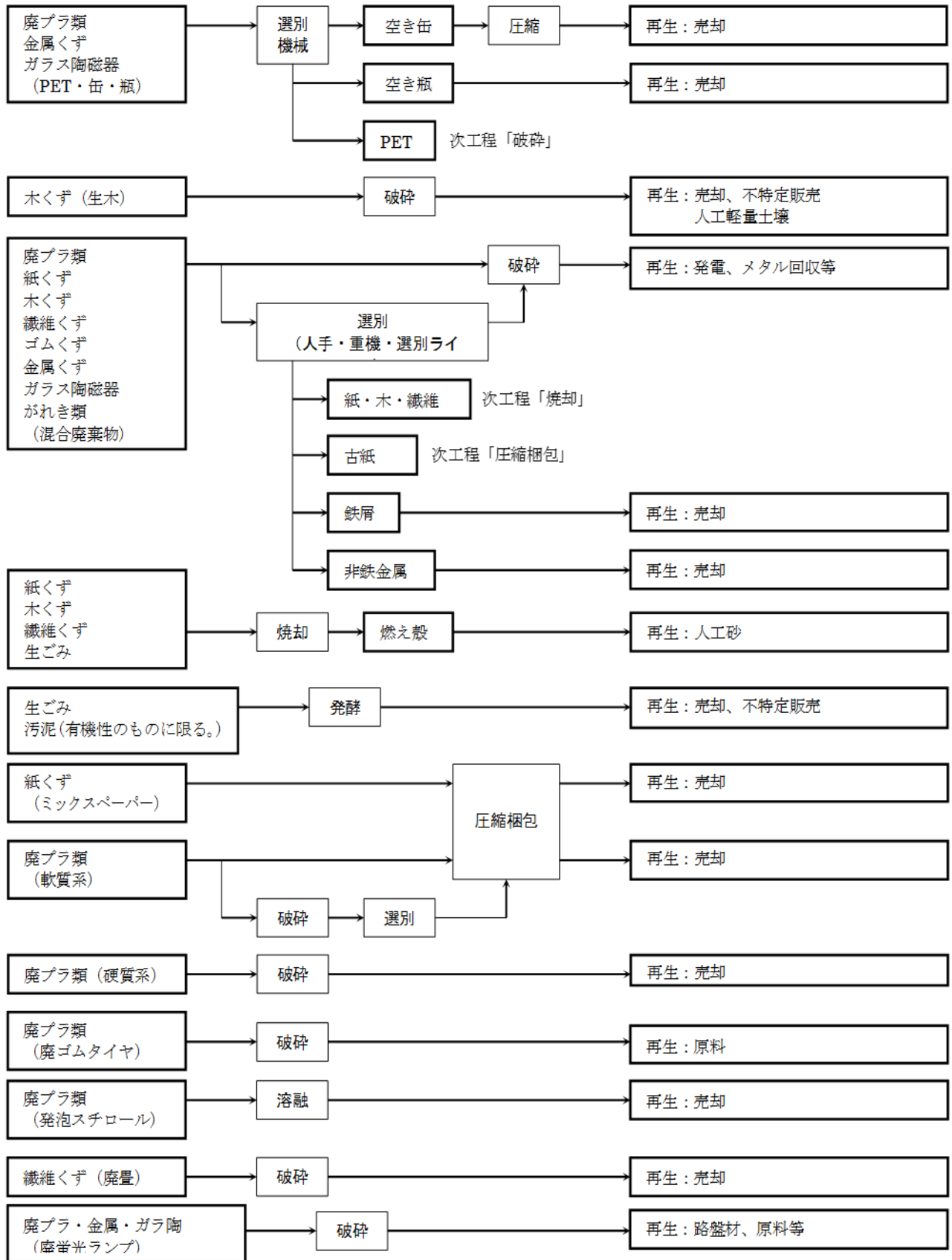
種類	台数
全保有台数	59台
2t塵芥車	5台
3t塵芥車	21台
4t塵芥車	1台
3tコンテナ車	2台
4tコンテナ車	7台
大型コンテナ車	10台
0.35tキャブオーバ車	2台
2tキャブオーバ車	3台
3tキャブオーバ車	2台
4tキャブオーバ車	1台
大型キャブオーバ車	1台
1tダンプ車	1台
2tダンプ車	1台
大型ダンプ車	1台
バン	1台

4. 処理工程

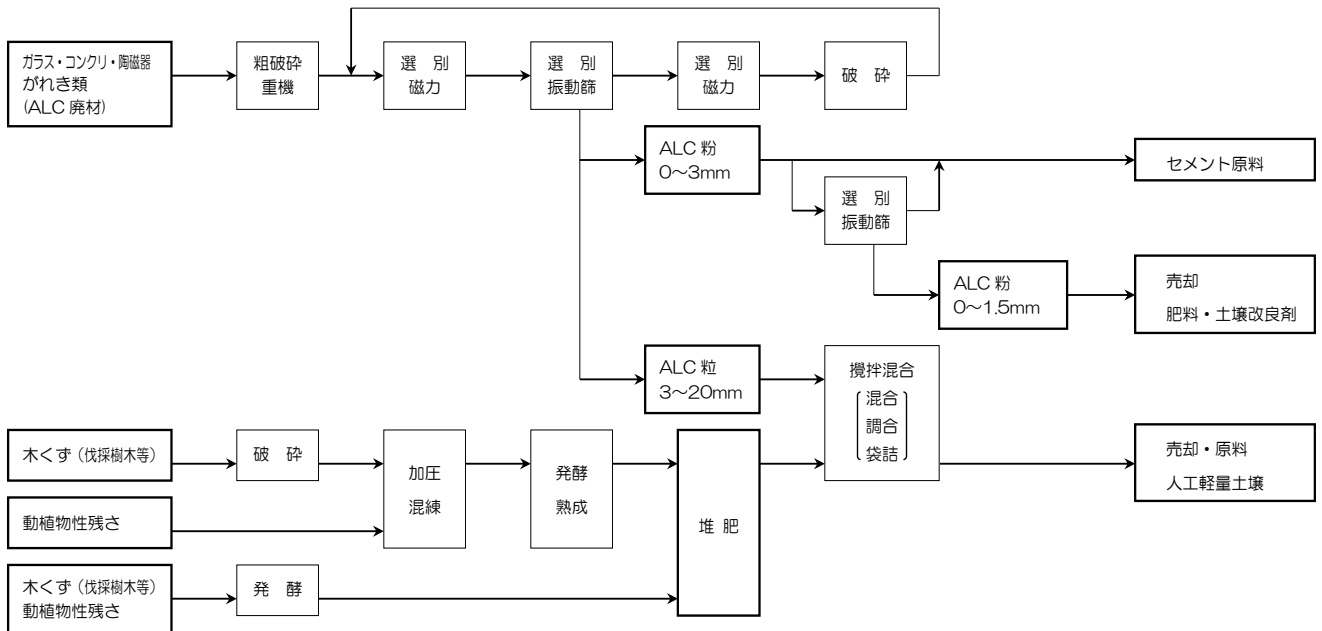
産業廃棄物処理フロー図（伊奈平工場）



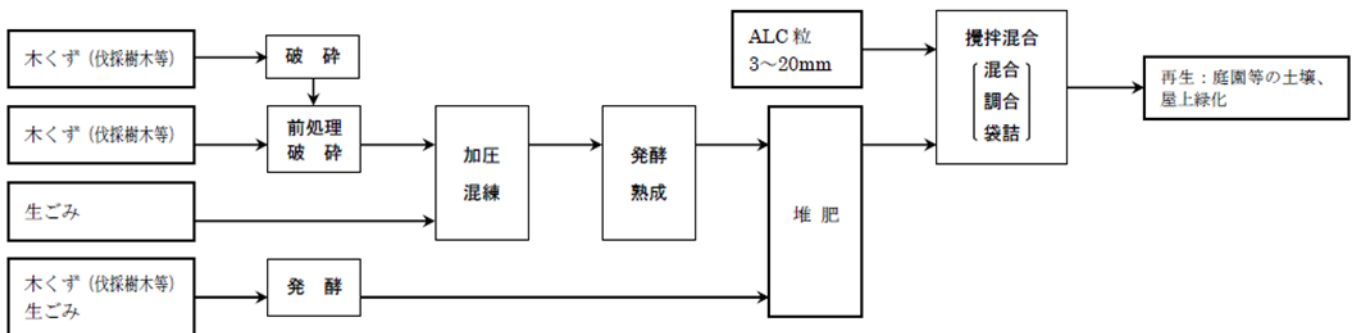
一般廃棄物処理フロー図（伊奈平工場）



産業廃棄物処理フロー図（入間工場）



一般廃棄物処理フロー図（入間工場）



※ 瑞穂積替保管施設・あきる野積替保管施設では、受け入れた産業廃棄物の選別、中間処理前の一次処理施設として伊奈平工場のリサイクル率アップに貢献しております。また、石綿含有産業廃棄物の受入施設としてその保管と契約最終処分場への運搬を行っております。

5. 設備処理能力

施設種類		許可品目		処理能力
伊 奈 平 工 場	圧縮	産廃	金属くず	4.30t/日
		一廃	空き缶	
	破砕	産廃	木くず	17.10t/日
		一廃		
	破砕	産廃	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、 ガラス・コンクリート・陶磁器くず、がれき類、ゴムくず	53.50t/日
		一廃		
	焼却炉	産廃	紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ	4.80t/日
		一廃	紙くず、木くず、繊維くず、生ごみ	
	発酵	産廃	動植物性残さ、汚泥(有機性のものに限る)	3.50t/日
		一廃	生ごみ、汚泥(有機性のものに限る)	
	破砕	産廃	廃プラスチック類、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず (水銀使用製品産業廃棄物を含む)	2.80t/日
		一廃		
	圧縮・梱包	産廃	廃プラスチック類	180.00t/日
		一廃	紙くず	166.80t/日
	破砕	産廃	廃プラスチック類	6.30t/日
		一廃		
	溶融	産廃	廃プラスチック類	2.40t/日
一廃				
破砕	産廃	廃プラスチック類	48.00t/日	
	一廃	繊維くず	32.10t/日	
圧縮・梱包	産廃	廃プラスチック類	24.30t/日	
	一廃	繊維くず	17.20t/日	
破砕	産廃	廃プラスチック類	44.70t/日	
	一廃	繊維くず	32.30t/日	
圧縮	産廃	金属くず	10.20t/日	
	一廃	空き缶		
破砕	産廃	ガラス・コンクリート・陶磁器くず、がれき類	480.00t/日	
	一廃			
破砕	産廃	木くず	186.40t/日	
	一廃			
造粒固化	産廃	ガラス・コンクリート・陶磁器くず、がれき類	6.10t/日	
	一廃			
入 間 工 場	破砕	産廃	ガラスくず・コンクリートくず(がれき類を除く。)及び陶磁器くず、 がれき類	360.00t/日
		一廃		
	加圧混練・発酵	産廃	木くず(破砕後伐採樹木に限る)、動植物性残さ	5.84t/日
		一廃	木くず(破砕後伐採樹木に限る)、生ごみ	
	発酵	産廃	木くず(破砕後伐採樹木に限る)、動植物性残さ	3.51t/日
		一廃	木くず(破砕後伐採樹木に限る)、生ごみ	
	発酵	産廃	木くず(破砕後伐採樹木に限る)、動植物性残さ	3.51t/日
		一廃	木くず(破砕後伐採樹木に限る)、生ごみ	
	発酵	産廃	木くず(破砕後伐採樹木に限る)、動植物性残さ	3.51t/日
		一廃	木くず(破砕後伐採樹木に限る)、生ごみ	
発酵	産廃	木くず(破砕後伐採樹木に限る)、動植物性残さ	3.51t/日	
	一廃	木くず(破砕後伐採樹木に限る)、生ごみ		
破砕	産廃	木くず	9.52t/日	
	一廃			
破砕	産廃	ガラスくず・コンクリートくず(がれき類を除く。)及び陶磁器くず、 がれき類	169.60t/日	
	一廃			

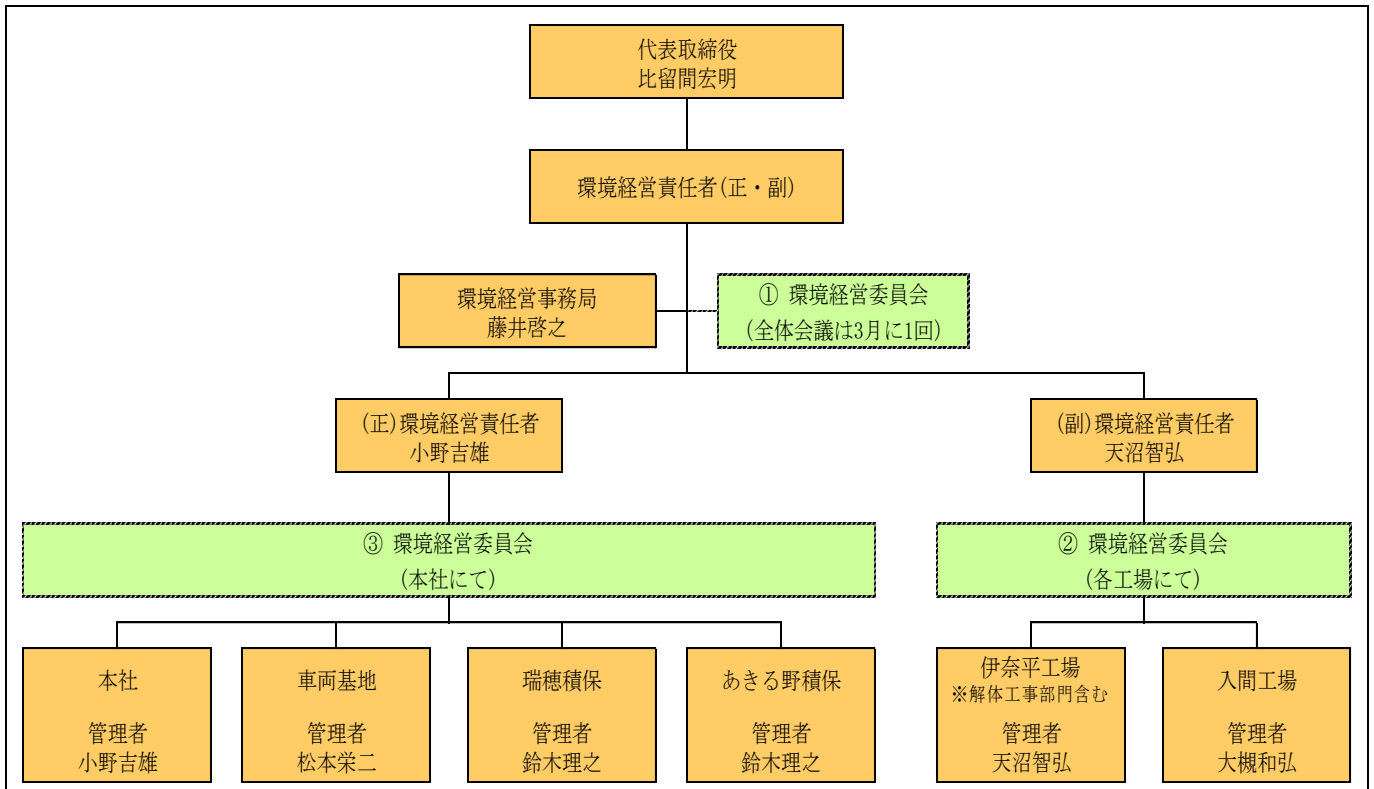
6. 対象期間（認証・登録の対象組織）

- (1) 登録組織名 : 比留間運送株式会社
- (2) 対象事業所 : 本社
伊奈平工場
入間工場
瑞穂積替保管施設・車両基地
あきる野積替保管施設
- (3) 対象とする活動 : 一般貨物運送業
一般廃棄物 収集運搬業・処分業（中間処理）
産業廃棄物 収集運搬業・処分業（中間処理）
解体工事事業
第一種フロン回収事業



7. 組織図と実施体制

【作成：2021年12月6日】



組織体制	主要な業務
社長	<p>【比留間運送株式会社の環境マネジメントシステムに関する最高責任者】</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境マネジメントシステムの実施及び管理に不可欠な資源の提供をする。 経営における課題とチャンス明確化をする。 環境経営方針を決定する。 環境経営責任者を任命し、環境経営委員会を通じて当社従業員全体に伝達する。 環境経営目標、環境経営活動、環境経営活動レポートを承認する。 エコアクション21の全体の評価と見直しを実施する。
環境経営責任者(正・副)	<p>【環境経営システムに関する管理責任者】</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの要求事項を確立し、実施し、且つ維持する。 実施計画とその実績フォローシートを承認する。 環境経営システムの実績、運用状況を社長へ報告する。 環境経営方針策定の補佐、又は環境経営方針を周知する。 環境負荷の自己チェックと取組項目の自己チェックを承認する。 法規制等の調査、特定及び法規制一覧を承認する。 環境経営委員会の議長を担当する。 教育計画を承認し、実施する。 内部、外部とのコミュニケーションに対応する。
環境経営委員会	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営方針、環境経営目標、実施計画等の環境経営システムに関する事項を審議する。 毎月サイトごとに実施、3月ごとに全体会議とする(前頁組織図を参照)
環境経営事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営委員が個々に立たした役割成果を取りまとめる。 定期的に環境負荷の自己チェックと取組項目の自己チェックの実施支援をする。 法規制等の調査、特定及び法規制一覧を作成、取りまとめる。 環境経営レポート原案を作成する。 文書管理(配付、原本)を行う。
各部門長	<ul style="list-style-type: none"> 各部門の環境経営計画を立て実施する。 自部門に必要な環境経営計画及び法規制、運用手順の教育をおこなう。 定期的に環境負荷の自己チェックと取組項目の自己チェックを実施する。

環境経営方針

《基本理念》

比留間運送株式会社は、「狭山丘陵と多摩川を擁した自然豊かなこの地の環境」を、そして広くは「かけがえのない地球環境」を健全な姿で後世に継承することが、人類の共通課題のひとつとして認識し、「ゼロ・エミッションへの限りない挑戦による、人と自然の最も理想的な関係の追求」を基本理念とします。

《基本方針》

比留間運送株式会社は廃棄物処理事業及びリサイクル事業が主体であることを踏まえて、以下の具体的な事項に基づき、当社すべての従業員による環境活動の推進、ならびに循環型社会の構築とその啓蒙活動を通じ、地域に密着したクリーン企業として地球環境と企業活動の調和を目指します。

1. 具体的に次のことに取り組みます。

- 1) 電気・燃料等のエネルギー使用量を低減します。
- 2) 水の使用量を低減します。
- 3) 化学物質の管理を徹底します。
- 4) 本業に関する環境配慮活動を行います。
- 5) 廃棄物の排出量を削減します。
- 6) 再資源化率の向上を目指し、地域密着型の資源循環活動を推進します。

これらについて環境経営目標及び環境経営活動計画を定め、定期的に見直しを行い、継続的な改善に努めます。

2. 環境関連法規制や当社が約束したその他の要求事項を順守します。

3. この環境経営方針は全従業員に周知徹底します。

4. 環境への取り組みを環境経営レポートとして取りまとめて公表します。

比留間運送株式会社

代表取締役 比留間宏明

制定：平成11年02月26日

改定1：平成12年07月13日

改定2：平成13年05月24日

改定3：平成15年05月06日

改定4：平成24年03月30日

改定5：平成24年11月27日

改定6：令和02年04月01日

改定7：令和02年06月11日

9. 環境経営目標一覧



全事業所							
環境経営目標	単位	【基準年】	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
電気・燃料等のエネルギー使用量を低減します							
二酸化炭素排出量 (注1)	kg-CO ₂	2,820,619	2,681,766	2,662,409	2,635,785	2,609,427	2,583,333
購入電力	kwh	2,561,865	2,572,996	2,563,664	2,538,027	2,512,647	2,487,521
LPG	kg	315	292	289	286	283	280
軽油	ℓ	565,836	585,298	579,445	573,651	567,914	562,235
水の使用量を低減します							
上水	m ³	3,452	3,866	3,827	3,789	3,751	3,714
地下水	m ³	3,446	3,212	3,180	3,148	3,117	3,085
化学物質の管理を徹底します(注2)							
ダイオキシン類濃度の自主基準値の維持(年/1回自社測定) ※法基準値：10ng-TEQ/m ³ N	ng-TEQ/m ³ N	5	5	5	5	5	5
本業に関する環境配慮活動を行います							
設備・重機・車両の突発的故障件数を低減する	件	32件以内	18件以内	18件以内	18件以内	18件以内	18件以内
作業効率向上の改善事例件数	件	21件以上	29件以上	29件以上	24件以上	24件以上	24件以上
製品の出荷先からのクレーム件数0件を維持する	件	0	0	0	0	0	0
廃棄物の排出量を削減します							
事業所から出る廃棄物排出量を削減する	kg	8,470	6,152	6,090	7,020	7,020	7,020
再資源化率の向上を目指し、地域密着型の資源循環活動を推進します							
中間処理後の産業廃棄物リサイクル率	%	82	86	87	88	89	90
解体工事に伴う廃棄物再資源化率	%	90	90	90	90	90	90

(注1) 購入電力のCO₂排出係数は、東京電力の0.455kg-CO₂/kWh(2018年度実績(2019年8月公表))を用いた。

(注2) 伊奈平工場、焼却炉の排ガス中のダイオキシン類濃度を示す。

(注3) 事務所から排出された一般廃棄物は、全量再生利用されています。

(注4) 中間処理後の産業廃棄物リサイクル率は、処理後の搬出した量の最終所分場行きと再生利用行きの割合で算出しています。

(注5) 解体工事に伴う廃棄物再資源化率は、再資源化量と最終処分量の割合で算出しています。

10. 環境経営計画一覧

【取組期間：2022年4月～2023年3月】

環境経営目標	環境経営計画の具体的な取組	本社	車両基地	伊奈平工場	入間工場	瑞穂積保	あきる野積保	解体部門	進捗管理 及び記録
		小野	松本	天沼	大槻	鈴木	鈴木	天沼	
電気使用量の削減	事務所・工場の照明の不必要な時・箇所を消灯	●	●	●	●	●	●		実施計画と実績 フォローシート
	空調の適温化	●	●	●	●	●	●		
	OA機器の不必要な時の電源OFF	●	●	●	●	●	●		
	設備の空運転の防止			●	●				
	照明器具・空調機（フィルター等）の清掃					●	●		
	環境負荷低減の教育	●	●	●	●	●	●		教育記録
軽油使用量の削減	重機・車両のアイドリングストップ	●	●	●	●	●	●	●	実施計画と実績 フォローシート
	積み込み作業時のアイドリングストップ	●	●						
	ハッカ-車の無駄まき抑制	●	●						
	急発進・急停車の抑制	●	●						
	前年度の車両燃費データと比べた分析	●	●						
	環境負荷低減の教育・エコ運転の教育	●	●	●	●	●	●	●	教育記録
水使用量の削減	散水時の節水			●	●	●	●	●	実施計画と実績 フォローシート
	洗車時の節水	●	●	●	●	●	●		
	環境負荷低減の教育	●	●	●	●	●	●	●	教育記録
化学物質の管理 (注1)	自主基準値5ng-TEQ/m ³ Nを維持			●					実施計画と実績 フォローシート
本業に関する 環境配慮活動	製品の状態の確認			●	●				
	製品納品先からのクレーム発生件数の0件維持			●	●				
	設備・重機・車両の突発的故障を低減する	●	●	●	●	●	●		
	設備・重機・車両の日常・定期点検の実施	●	●	●	●	●	●		
各部署、決められた目標件数以上の業務改善を行う	●	●	●	●	●	●		実施計画と実績 フォローシート	
廃棄物排出量の削減	各部署、決められた目標値以下のごみの排出量を維持・削減	●	●	●	●	●	●		実施計画と実績 フォローシート
再資源化率の向上	中間処理後の産業廃棄物リサイクル率88%以上の達成			●					
	リサイクル出来る廃棄物の選別状況の確認			●		●	●	●	
	積み込み作業時のリサイクル出来る廃棄物の仕分積み込み状況の確認		●						
解体工事に伴う廃棄物再資源化率90%以上を維持							●		

(注1)伊奈平工場、焼却炉の排ガス中のダイオキシン類濃度を示す。

※●は、環境活動の取組の実施を示す。

1.1. 環境経営目標の実績



全事業所					
環境経営目標	単位	2022年度 目標値	2022年度 実績値	評価	
電気・燃料等のエネルギー使用量を低減します					
二酸化炭素排出量 (注1)	kg-CO ₂	2,635,785	2,189,634	○	-446,151
購入電力	kwh	2,538,027	2,088,879	○	-449,148
LPG	kg	286	169	○	-117
軽油	ℓ	573,651	480,112	○	-93,539
水の使用量を低減します					
上水	m ³	3,789	2,923	○	-866
地下水	m ³	3,148	2,038	○	-1,110
化学物質の管理を徹底します(注2)					
ダイオキシン類濃度の自主基準値の維持(年/1回自社測定) ※法基準値：10ng-TEQ/m ³ N	ng-TEQ/m ³ N	5	7.4	×	
本業に関する環境配慮活動を行う					
設備・重機・車両の突発的故障件数を低減する	件	18件以内	9	○	
作業効率向上の改善事例件数	件	24件以上	27	○	
製品の出荷先からのクレーム件数0件を維持する	件	0	0	○	
廃棄物の排出量を削減します					
事業所から出る廃棄物排出量を削減する	kg	7,020	6,334	○	-686
再資源化率の向上を目指し、地域密着型の資源循環活動を推進します					
中間処理後の産業廃棄物リサイクル率	%	88.00	92.57	○	
解体工事に伴う廃棄物再資源化率	%	90.00	93.54	○	

(注1) 購入電力のCO₂排出係数は、東京電力の0.455kg-CO₂/kWh(2018年度実績(2019年8月公表))を用いた。

(注2) 伊奈平工場、焼却炉の排ガス中のダイオキシン類濃度を示す。

(注3) 事務所から排出された一般廃棄物は、全量再生利用されています。

(注4) 中間処理後の産業廃棄物リサイクル率は、処理後の搬出した量の最終所分場行きと再生利用行きの割合で算出しています。

(注5) 解体工事に伴う廃棄物再資源化率は、再資源化量と最終処分量の割合で算出しています。

1 2. 環境負荷量の実績



本社



車両基地



伊奈平工場



入間工場



瑞穂積保



あきる野積保

	全事業所	本社	車両基地	伊奈平工場	入間工場	瑞穂積替 保管施設	あきる野積 替保管施設	解体部門
二酸化炭素排出量 (kg-CO ₂) 【注1】	2,189,634	138,716	718,744	1,044,992	246,313	26,457	9,397	5,016
割合 (%)	100.0%	6.3%	32.8%	47.7%	11.2%	1.2%	0.4%	0.2%
電力使用量 (kWh)	2,088,879	26,184	23,824	1,567,211	459,031	7,569	5,060	-
割合 (%)	100.0%	1.3%	1.1%	75.0%	22.0%	0.4%	0.2%	0.0%
LPG使用量 (kg)	169	60	10	84	15	-	-	-
割合 (%)	100.0%	35.7%	5.8%	49.9%	8.6%	0.0%	0.0%	0.0%
軽油使用量 (ℓ)	480,112	49,078	274,370	128,550	14,500	8,920	2,750	1,944
割合 (%)	100.0%	10.2%	57.1%	26.8%	3.0%	1.9%	0.6%	0.4%
水道水使用量 (m ³)	2,923	539	833	834	695	-	22	-
割合 (%)	100.0%	18.4%	28.5%	28.5%	23.8%	0.0%	0.8%	0.0%
中間処理後における 産業廃棄物 最終処分場搬出量 (t)	2,324.62	-	-	2,324.62	-	-	-	-
割合 (%)	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
解体工事に伴う 産業廃棄物 最終処分場量 (t)	60.99	-	-	-	-	-	-	60.99
割合 (%)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

(注1) 購入電力のCO₂排出係数は、東京電力の0.455kg-CO₂/kWh(2018年度実績(2019年8月公表))を用いた。

13. 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

(1) 環境経営計画の取組結果とその評価

【取組期間：2022年4月～2023年3月】

環境目標	環境活動の具体的な取組	本社	車両基地	伊奈平工場	入間工場	瑞穂積保	あきる野積保	解体部門
		取組結果の総点数・数値結果等						
		取組の評価						
電気使用量の削減	事務所・工場の照明の不必要な時・箇所を消灯	24点 ○	19点 ○	22点 ○	24点 ○	23点 ○	24点 ○	
	実施出来ていた。							
	空調の適温化	21点 ○	19点 ○	24点 ○	24点 ○	18点 ○	22点 ○	
	猛暑日の期間はエアコンの設定温度を下げ気味で稼働させていたが、適切な温度管理で実施出来ていた。							
	OA機器の不必要な時の電源OFF	24点 ○	24点 ○	24点 ○	24点 ○	22点 ○	24点 ○	
	実施出来ていた。							
	設備の空運転の防止			20点 ○	24点 ○			
繁忙期に空運転している時もあったが、実施出来ていた。								
照明器具・空調機の清掃					8点 ×	16点 △		
業務の多忙等を言い訳に実施されていないが、空調機の清掃は節電・空調機の効きにも繋がるので、来年度も引き続き粘り強く教育していく。								
環境負荷低減教育		実施済 ○	実施済 ○	実施済 ○	実施済 ○	実施済 ○	実施済 ○	実施済 ○
全部署教育済み。								
数値評価	各事業所の環境目標実績結果は、達成部署は5カ所、未達成部署は1カ所（本社：収集運搬部門の事務所の増設が要因の為、目標値の見直しを検討）。全事業所で見ると、目標値より446,151kwh削減出来た。							
軽油使用量の削減	重機・車両のアイドリングストップ	20点 ○	24点 ○	19点 ○	17点 ○	24点 ○	24点 ○	24点 ○
	ほぼ実施出来ていた。							
	積みみ作業時のアイドリングストップ	24点 ○	24点 ○					
	実施出来ていた。							
	パッカー車の無駄まき抑制	24点 ○	24点 ○					
	実施出来ていた。							
	急発進・急停車の抑制	19点 ○	24点 ○					
本社が実施出来ていない時もあった。意識した行動を心掛けるように努める。								
前年度車両燃費データと比較分析	21点 ○	16点 △						
燃料等も高騰している為、低燃費を意識した運転を心掛けるように努める。								
環境負荷低減教育・ID運転教育		実施済 ○	実施済 ○	実施済 ○	実施済 ○	実施済 ○	実施済 ○	実施済 ○
全部署教育済み。								
数値評価	各事業所の環境目標実績結果は、達成部署は6カ所、未達成部署は1カ所（本社：収集運搬部門の車両の増車が要因の為、目標値の見直しを検討）。全事業所で見ると、目標値より93,539ℓ削減出来た。							
水使用量の削減	散水時の節水			24点 ○	20点 ○	23点 ○	24点 ○	24点 ○
	実施出来ていた。							
	洗車時の節水	24点 ○	19点 ○	24点 ○	24点 ○	24点 ○	24点 ○	
ほぼ実施出来ていた。								
環境負荷低減の教育		実施済 ○	実施済 ○	実施済 ○	実施済 ○	実施済 ○	実施済 ○	実施済 ○
全部署教育済み。								
数値評価	各事業所の環境目標実績結果は、達成部署は4カ所、未達成部署は1カ所（車両基地：洗車時の節水を徹底する）。全事業所で見ると、目標値より866m ³ 削減出来た。							

環境目標	環境活動の具体的な取組	本社	車両基地	伊奈平工場	入間工場	瑞穂積保	あきる野積保	解体部門
		取組結果の総点数・数値結果等						
		取組の評価						
化学物質の管理(注1)	自主基準値5ng-TEQ/m ³ を維持			×				
		ダイオキシン類の測定について、2022年8月12日に測定し、結果7.4ng-TEQ/m ³ 。自主基準値を超えてしまったが、法的基準値（10ng-TEQ/m ³ ）以下なので問題はないが、焼却炉の維持管理に努めていく。 行政による測定について、2023年1月27日に武蔵村山市によるダイオキシン類の測定があった。結果、4.6ng-TEQ/m ³ で基準値以下で問題なし。						
本業に関する環境配慮活動	製品の状態の確認			○	○			
	製品状態も特に問題なし。							
	製品納品先からのクレーム発生件数の0件維持			○	○			
	クレーム件数も0件で、製品状態も問題なし。							
	設備・重機・車両の突発的故障を低減する	○	×	○	○	○	○	
	目標値達成部署は5カ所、未達成部署は1カ所。突発的故障が発生すると業務に支障が出る為、引き続き点検等を行い、しっかり維持管理に努めていく。							
設備・重機・車両の日常・定期点検の実施	24点 ○	22点 ○	20点 ○	20点 ○	20点 ○	21点 ○		
実施出来ていた。引き続き、細かい部分の点検等も行い、設備・重機・車両を延命化出来るように努めていく。								
各事業所、決められた目標件数以上の業務改善を行う	○	○	○	○	○	○		
全事業所達成。引き続き、積極的に業務改善を行う。								
廃棄物排出量の削減	○	○	○	○	○	○		
全事業所達成。全事業所で見ると、目標値より686kg削減出来た。再利用できる物は、再利用してごみの排出量を低減するように、引き続き努めていく。								
再資源化率の向上	中間処理後の産業廃棄物リサイクル率88%以上の達成			○				
	2022年度のリサイクル率は92.57%で、目標値達成。							
	リサイクル出来る廃棄物の選別状況の確認			23点 ○		24点 ○	24点 ○	22点 ○
	実施出来ていた。引き続き再資源化に努めていく。							
積込作業時のリサイクル出来る廃棄物の仕分け積み込み状況の確認		24点 ○						
実施出来ていた。引き続き再資源化に努めていく。								
解体工事に伴う廃棄物再資源化率90%以上を維持							○	
2022年度の再資源化率は93.54%で、目標値達成。								

(注1)伊奈平工場、焼却炉の排ガス中のダイオキシン類濃度を示す。

評価方法：【○】24点～17点：実施（達成）出来た

【△】16点～9点：実施（達成）がある程度出来た

【×】8～1点：実施（達成）出来なかった

(2) 次年度の取組内容

【取組期間：2023年4月～2024年3月】

環境経営目標	環境経営計画の具体的な取組	本社	車両基地	伊奈平工場	入間工場	瑞穂積保	あきる野積保	解体部門	進捗管理 及び記録
		神山	松本	天沼	大槻	鈴木	鈴木	天沼	
電気使用量の削減	照明の不必要な時・箇所を消灯	●	●	●	●	●	●		実施計画と実績 フォローシート
	空調の適温化	●	●	●	●	●	●		
	OA機器の不必要な時の電源OFF	●	●	●	●	●	●		
	設備の空運転の防止			●	●				
	空調機（フィルター等）の清掃					●	●		
	環境負荷低減の教育	●	●	●	●	●	●		教育記録
軽油使用量の削減	重機・車両のアイドリングストップ	●	●	●	●	●	●	●	実施計画と実績 フォローシート
	積み込み作業時のアイドリングストップ	●	●						
	パッカー車の無駄まき抑制	●	●						
	急発進・急停車の抑制	●	●						
	前年度の車両燃費データと比べた分析	●	●						
	環境負荷低減の教育・エコ運転の教育	●	●	●	●	●	●	●	教育記録
水使用量の削減	散水時の節水			●	●	●	●	●	実施計画と実績 フォローシート
	洗車時の節水	●	●	●	●	●	●		
	環境負荷低減の教育	●	●	●	●	●	●	●	教育記録
化学物質の管理 (注1)	自主基準値5ng-TEQ/m ³ Nを維持			●					
本業に関する 環境配慮活動	製品の状態の確認			●	●				実施計画と実績 フォローシート
	製品納品先からのクレーム発生件数の0件維持			●	●				
	設備・重機・車両の突発的故障を低減する	●	●	●	●	●	●		実施計画と実績 フォローシート
	設備・重機・車両の日常・定期点検の実施	●	●	●	●	●	●		
	各部署、決められた目標件数以上の業務改善を行う	●	●	●	●	●	●		
廃棄物排出量の削減	各部署、決められた目標値以下のごみの排出量を維持・削減	●	●	●	●	●	●		
再資源化率の向上	中間処理後の産業廃棄物リサイクル率89%以上の達成			●					実施計画と実績 フォローシート
	リサイクル出来る廃棄物の選別状況の確認			●		●	●	●	
	積込作業時のリサイクル出来る廃棄物の仕分積込み状況の確認		●						
	解体工事に伴う廃棄物再資源化率90%以上を維持							●	

(注1)伊奈平工場、焼却炉の排ガス中のダイオキシン類濃度を示す。
※●は、環境活動の取組の実施を示す。

14. 環境関連法規制等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟の有無

《 2022年度環境法規制その他要求事項一覧表 》		遵守状況
01	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	○
02	武蔵村山市廃棄物の処理及び再利用の促進に関する条例	○
03	小平市廃棄物の減量及び処理に関する条例	○
04	東大和市廃棄物の処理及び再利用の促進に関する条例	○
05	八王子市廃棄物の処理及び再利用の促進に関する条例	○
06	西東京市廃棄物の処理及び再利用に関する条例	○
07	東久留米市廃棄物の処理及び再利用に関する条例	○
08	羽村市廃棄物の処理及び再利用の促進に関する条例	○
09	昭島市廃棄物の処理及び再利用の促進に関する条例	○
10	国立市における廃棄物等の発生の抑制、循環的な利用の促進及び適正な処分の確保に関する条例	○
11	小金井市廃棄物の処理及び再利用の促進に関する条例	○
12	東村山市廃棄物の処理及び再利用の促進に関する条例	○
13	日野市廃棄物の処理及び再利用の促進に関する条例	○
14	立川市廃棄物処理及び再利用促進条例	○
15	入間市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例	○
16	瑞穂町廃棄物の処理及び再利用の促進に関する条例	○
17	調布市廃棄物の処理及び再利用の促進に関する条例	○
18	日の出町廃棄物の処理及び再利用の促進に関する条例	○
19	清瀬市廃棄物の処理及び再利用の促進に関する条例	○
20	あきる野市廃棄物の処理及び再利用の促進に関する条例	○
21	国分寺市廃棄物の処理及び減量並びに再利用に関する条例	○
22	福生市廃棄物の処理及び再利用の促進に関する条例	○
23	青梅市廃棄物の処理および再利用の促進に関する条例	○
24	府中市廃棄物の処理及び再生利用に関する条例	○
25	檜原村廃棄物の処理及び再利用の促進に関する条例	○
26	寄居町廃棄物の減量及び処理に関する条例	○
27	銚子市廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例	○
28	桐生市廃棄物の処理及び清掃に関する条例	○
29	ダイオキシン類対策特別措置法	○
30	特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律	○
31	大気汚染防止	○
32	騒音規制法	○
33	振動規制法	○
34	悪臭防止法	○
35	消防法	○
36	火災予防条例	○
37	都民の健康と安全を確保する環境に関する条例	○
38	東京における自然の保護と回復に関する条例	○
39	東京都暴力団排除条例	○
40	特定家庭用機器再商品化法	○
41	使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律	○
42	貨物自動車運送事業法	○
43	貨物自動車運送事業輸送安全規則	○
44	国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律	○
45	建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律	○
46	石綿障害予防規則	○
47	フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律	○

《 2022年度環境法規制その他要求事項一覧表 》を用いて、2023年3月31日に遵守状況を確認した結果、当社における法規制への違反はありませんでした。尚、これらの法規制に対する関係当局からの違反の指摘及び関連する訴訟等は過去3年間ありません。

15. 代表者による全体評価と見直しの結果

項目	社長指示事項	
代表者による全体評価	<p>2022年度は長引くコロナ禍の影響や国際情勢の不安定化によるエネルギー・資源価格の高騰と円安による物価高のなか、環境経営目標を達成することで、事業全体の固定費削減に繋げることが出来ました。引き続き、各事業所は環境目標を意識して日々の業務に取り組んで下さい。</p> <p>また、焼却炉のダイオキシン測定値は法令基準値の達成は当然のことですが、維持管理を徹底する事で、自主規制値を達成し、周辺環境の保全に努めること。</p>	
代表者による見直し	環境経営方針	現時点での見直しは不要とする
	環境経営目標	見直しを実施する
	環境経営計画	現時点での見直しは不要とする
	環境経営システム	現時点での見直しは不要とする
	実施体制	現時点での見直しは不要とする